

新たな時代の年金運用の展望

【プログラム】

(13:00 開場・ご案内)

13:30 – 13:35 開会の辞

荻島 誠治 野村フィデューシャリー・リサーチ & コンサルティング株式会社 (NFRC) 代表取締役社長

13:35 – 14:15 基調講演

Session 1

グローバルマクロ、海外投資家動向と日本株投資戦略

海外投資家の日本株に対する注目度が今までに高く高まっています。重要なのは、政策主導だった「アベノミクス」の局面とは異なり、日本企業の自律的な変化への期待が膨らんでいることです。「デフレ脱却」「ガバナンス改革」という2大テーマを軸に、海外投資家動向を交えながら日本株のシナリオ・戦略をご紹介します。



池田 雄之輔

野村証券株式会社
市場戦略リサーチ部 チーフ・エクイティ・ストラテジスト

野村証券の日本のマクロ、株式投資戦略を統括するチーフストラテジスト(マネージング・ディレクター)。95年東京大学卒、野村総合研究所入社。一貫してマクロ経済調査を担当し、19年より現職。5年間のロンドン駐在で築いた海外ヘッジファンドとの豊富なネットワークも武器。現在、テレビ東京「モーニングサテライト」に定期的に出演中。

14:15 – 15:00 基調講演

Session 2

豪州投資家から学ぶインフラ投資の新展開

投資家は「インフレーション」というこれまでとは異なる環境下での資産運用を考える必要があります。インフラストラクチャーへの投資はその収益の性格からインフレーション下において安定したインカムを提供できる資産として注目されています。また、長期的にはエネルギー転換、高齢化、デジタル化など成長テーマもあり、豊富な投資機会が期待できるエリアです。皆様のインフラストラクチャーへの投資の参考になれば幸いです。



高山 裕一

フロンティア・アドバイザーズ・ジャパン在日代表

当社以前は、東京海上アセットマネジメントなどにて、主に日本株を中心とした海外事業に従事。それ以前は旧三井信託銀行(現三井住友信託銀行)などにて外国株の運用を担当。1998年から2013年まで主にロンドンで勤務。1990年慶応義塾大学経済学部卒、2000年に英国City University Cass Business Schoolにて経営学修士(MBA)を取得。2016年にCAIA協会日本支部を支部長として設立。公益社団法人日本証券アナリスト協会認定アナリスト、GARP協会認定財務リスクマネージャー。

【休憩】

経済シナリオと年金運用へのインプリケーション

「コロナ後」の急激なインフレと度重なる米利上げにより、経済環境や経済見通しの様相は大きく変わりました。期待リターン推計と基本ポートフォリオ検証・策定における課題と、それに対するソリューションについて、アセットオーナー、アセットマネジャー、コンサルタント三者の立場からディスカッションします。



西迫 伸一

国民年金基金連合会
資産運用部
シニアアドバイザー

1984年東京大学工学部土木工学科卒業後、石川島播磨重工業（現IHI）橋梁設計部入社。1990年 野村証券株式開発室入社。1994年野村総合研究所クオンツリサーチ室。1997年野村証券に復帰、金融研究所投資技術研究部。厚生省所管の年金資金運用研究センター（当時）常勤研究員を経て、2001年野村証券金融経済研究所に復帰（その間、2002年米国UCLA大学院にて客員研究員（1年間）、2008年野村不動産出向（1年間））。2021年4月より現職。専門はアセットアロケーション、不動産、インフラ投資等



西川 裕

野村アセットマネジメント株式会社
グローバル・リサーチ部
（経済調査グループ）
シニア・クオンツアナリスト

2005年まで三菱UFJ国際投信においてクオンツ開発・運用等に従事。その後野村アセットマネジメントにおいて投資開発室（現資産運用先端技術研究部）や運用企画などを経て、2014年より経済調査グループでマクロ経済ならびに金融市場の定量分析を担当する。日本株戦略委員会やマルチアセット投資委員会、その他複数の委員を兼務し、国内外の拠点向けにストラテジストとしての情報発信を行っている。



モデレーター 高田 晴夏

野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社(NFRC)
フィデューシャリーマネージメント部 コンサルタント

2017年京都大学総合人間学部卒業後、野村証券入社。野村証券フィデューシャリー・マネージメント部にて公的年金向け運用コンサルティングおよび海外資産運用動向、ESG投資の分野を中心に年金運用に関するリサーチを行う。最近の主なリサーチレポートは「ESG投資方針の策定アイデア」(Fiduciary Research、2018年6月)等。

三井住友銀行企業年金基金様の年金資産運用について

株と債券の分散効果が低下するなど厳しい市場環境だった2022年度においても目標収益率を上回った三井住友銀行企業年金基金様に、積立比率に応じた目標収益率を設定して毎年基本ポートフォリオを検証・策定するガイドパスや、リスク管理を重視したアクティブ運用のフレームワークであるトータルポートフォリオアプローチの実践など、年金資産運用全般についてお伺いします。



野手 弘一

三井住友銀行企業年金基金
常務理事 兼 運用執行理事

1983年、住友銀行入行。大阪での勤務を経て86年より市場部門（東京）に異動。主に為替のディーラーとしてロンドン、ニューヨークで勤務。その後、東京、シンガポールで、為替、金利、デリバティブの業務推進に携わり、2013年より現在の基金に移り、運用に従事。現在に至る。

慶應義塾大学法学部法律学科卒業 国際科学技術財団 資産運用委員会メンバー



大塚 研吾

野村フィデューシャリー・リサーチ&
コンサルティング株式会社(NFRC)
企業年金コンサルティング・グループ
リーダー
エグゼクティブ・コンサルタント

2004年神戸大学経営学部卒業後、日本生命保険相互会社入社。国内株式のトレーディングやアナリストに従事。2008年野村証券入社。フィデューシャリー・マネージメント部にて企業年金向け運用コンサルティングに従事。2016年4月より企業年金コンサルティング・グループリーダー。2021年12月より現職。専門は、リスクファクター・アプローチによるポートフォリオ構築や、リスク管理手法に関する分析および導入支援。

八木 忠三郎 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社(NFRC) 代表取締役副社長